

まちづくり交付金 事後評価シート
宇宿中間地区

平成20年12月

鹿児島県鹿児島市

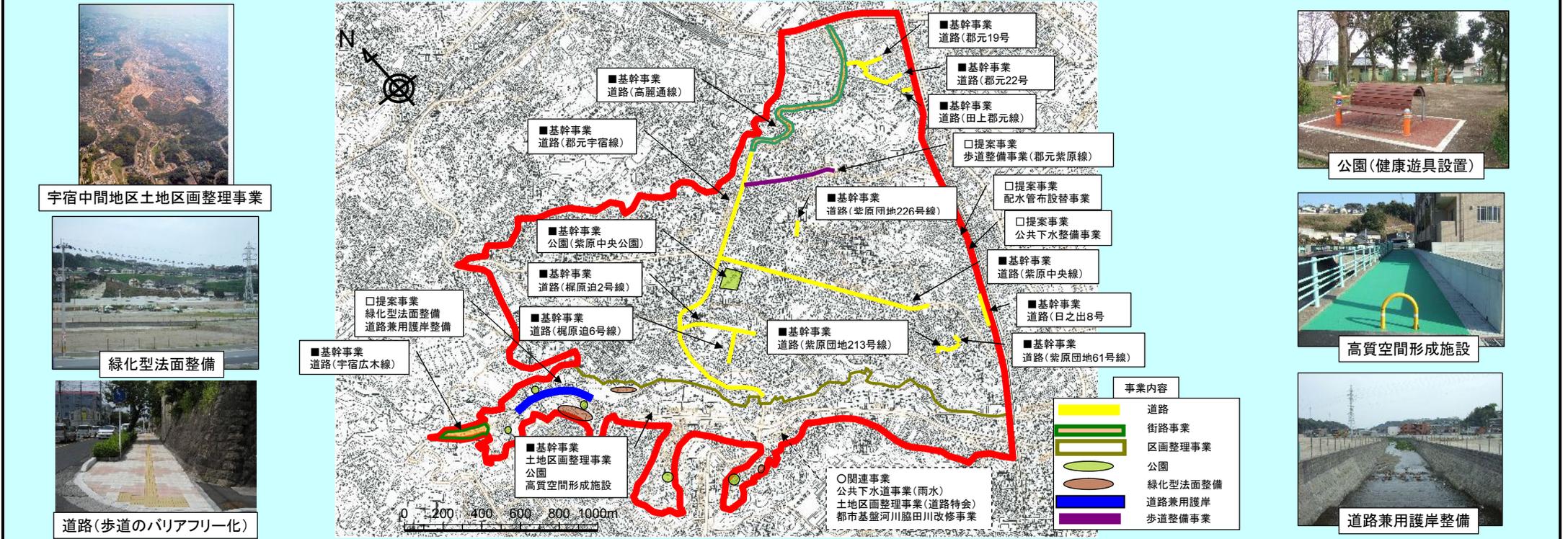
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	鹿児島県		市町村名	鹿児島市		地区名	宇宿中間地区			面積	444.7ha		
交付期間	平成16年度～平成20年度		事後評価実施時期	平成20年度		交付対象事業費	8,104.8百万円	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	事業名 公園(永仮公園、鍋ヶ宇都公園、広木第一公園、広木第二公園、広木第三公園)、高質空間形成施設(道路照明、緑道整備)、土地区画整理事業(宇宿中間地区)									
			提案事業	緑化型法面整備									
	当初計画から削除した事業		基幹事業	公園(中間公園)	事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			提案事業	なし									
	新たに追加した事業		基幹事業	道路(宇宿広木線、高麗通線、紫原中央線、郡元宇宿線、梶原迫2号線、日之出8号線、紫原団地213号線、紫原団地61号線、紫原団地226号線、郡元19号線、郡元22号線、梶原迫6号線、田上郡元線)公園(紫原中央公園:健康遊具設置)			生活環境の改善及び防災性の向上を図るため、追加した。		指標4の「都市計画道路の歩道バリアフリー化率」、指標5の「地区内居住人口数」を追加した。				
			提案事業	道路兼用護岸整備、歩道整備事業、公共下水道整備事業、配水管布設替事業			生活環境の改善及び防災性の向上を図るため、追加した。		指標4の「都市計画道路の歩道バリアフリー化率」、指標5の「地区内居住人口数」を追加した。				
交付期間の変更		当初	平成16年度～平成20年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし						
		変更	平成 年度～平成 年度										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値					
	指標1	斜面危険地帯面積(土地区画整理事業区域内)	m ²	8,878	H15	8,066	H20		7,140	○	あり なし	土地区画整理事業区域内の防災上危険なシラス急傾斜面の整備により、宅地の安全性が確保され、宅地の利用増進が図れた。	平成21年度内
	指標2	避難所(公園等)までの平均距離	m	192	H15	185.4	H20		185.4	○	あり なし	土地区画整理事業区域内の公園予定街区の敷地整備が完成したことにより、周辺住民の災害時等における避難地が確保された。	
	指標3	幹線道路の夜間平均照度(土地区画整理事業区域内)	ルクス	0	H15	5	H20		9	○	あり なし	土地区画整理事業区域内の道路照明施設の設置により、夜間における歩行者や車両通行の安全性が向上した。	
	指標4	都市計画道路の歩道バリアフリー化率	%	33	H17	57	H20		50	△	あり なし	一部の路線で地域の要望により整備内容を見直し、誘導ブロックの設置や歩道のカラー化を行ったため、整備延長が伸びず歩道整備計画の目標延長を達成できなかったが、より良質な歩道整備が実施できた。	平成21年5月
指標5	地区内居住人口数	人	45,811	H15	46,645	H20		46,680	○	あり なし	居住環境良好な宅地の形成により、宅地の利用増進が図られ、地区内居住人口が増加した。	平成21年5月	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値					
その他の数値指標1		都市再生整備計画区域内道路の歩道整備割合	%	39	H15			73				既設歩道の改良やバリアフリー化、新たな歩道設置により、歩行者の安全性と快適で良好な歩行者空間が確保された。	平成21年5月
4) 定性的な効果発現状況													
<ul style="list-style-type: none"> ・宅地の利用増進とともに、良好な住環境の形成が図られた。 ・消防車や救急車等の緊急車両の通行が可能となり、到着時間の短縮も図られ、市民の安心・安全に貢献した。 ・良好なまち並みが形成されるなど、都市景観が向上した。 ・商業施設や病院の立地が進み、市民生活の利便性が向上した。 ・若い世代の定住化が進み、まちが活性化した。 													
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況									
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	公園設計に係る住民アンケート調査		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
今後の対応方針等													
地域住民の意見を反映したまちづくりに努める。													

様式2-2 地区の概要

宇宿中間地区(鹿児島県鹿児島市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
防災性の向上や生活環境の改善を図るとともに、自然環境の保全・創出を図り、自然と調和した緑あふれるまちづくりを目標とする。	斜面危険地帯面積	単位:m ²	8,878	H15	8,066	H20	7,140	H20
	避難所(公園等)までの平均距離	単位:m	192	H15	185.4	H20	185.4	H20
	幹線道路の夜間平均照度	単位:ルクス	0	H15	5	H20	9	H20
	都市計画道路の歩道バリアフリー化率	単位:%	33	H17	57	H20	50	H20
	地区内居住人口数	単位:人	45,811	H15	46,645	H20	46,680	H20



まちの課題の変化

- ・道路事業による路肩改良や緑化型法面整備事業による土地区画整理事業区域内のシラス急傾斜面の整備により、防災性が向上し、宅地の利用増進が図れたが、都市再生整備計画区域内には、防災上危険な箇所が残されている。
- ・土地区画整理事業の進捗による公共施設の整備改善、配水管の耐震化による地震時の二次災害防止など、災害に強い快適で良好な居住環境が形成されたが、都市再生整備計画区域内には、まだ未整備の箇所が残されている。
- ・土地区画整理事業区域内の公園予定街区の敷地整備や紫原中央公園の健康遊具設置により、災害時の避難地や地域住民の健康づくりの場の提供など、安心安全で良好な居住環境が形成されたが、土地区画整理事業区域内には、整備すべき公園や遊戯施設、便益施設などが未整備の公園が残されている。
- ・土地区画整理事業区域内の幹線道路に道路照明施設を設置し、夜間における歩行者や車両通行の安全性が向上したが、土地区画整理事業区域内の幹線道路の整備は完了していないため、道路照明施設の設置が必要な箇所が残されている。
- ・都市計画道路高麗通線については、一部を供用開始できるなど、地域交通の円滑化及び安全性の向上が図られたが、計画区間の内、未整備区間が残されている。
- ・道路兼用護岸整備により護岸整備と道路整備を同時に実施することで、河川氾濫による災害防止と居住環境良好で安心安全な市街地形成が効率的に行われたが、未整備箇所が残されている。
- ・土地区画整理事業の進捗に伴い、地区内の幹線道路において交通量が増加してきているため、交通安全施設を整備するなど、歩行者や車両通行の安全性の確保が必要となってきている。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・各種事業により改善された良好な住環境を維持するため、市民と協働した公共施設の維持管理に努める。
- ・都市再生整備計画区域内には市街地の発展と都市機能が阻害されている公共施設等(道路、公園、シラス急傾斜面、道路兼用護岸、公共下水道、配水管等)が残されていることから、公共施設の整備改善や住居表示を実施し、居住環境良好な市街地の形成を図る。
- ・土地区画整理事業の進捗に伴い、地区内の幹線道路において交通量が増加してきていることから、歩行者や車両が安全かつ快適に移動できるよう交通安全施設の整備を図る。